

近代陶芸の開拓者

板谷波山

近代陶芸の祖

日本の陶芸を芸術の域にまで高めた近代陶芸の開拓者であり、陶芸家として初の文化勲章受章者となった板谷波山。

最新の釉薬技術やアール・ヌーヴォーのデザインなどを積極的に取り入れ、理想の陶磁器づくりのためには一切の妥協を許さず、理想を追い求めました。

生い立ち

板谷波山（本名・嘉七）は、明治5年、下館町田町で醤油醸造や日用品を扱う商家であった板谷家の三男六女の末子として生まれました。幼いころから、陶芸に興味があったという波山は、東京美術学校（現・東



京藝術大学）彫刻科を卒業後、石川県工業学校の教師として働きながら、本格的に陶芸の研究を始めます。

陶芸を一生の仕事にしたいという想いから、31歳のときに職を辞して、故郷の筑波山が見える東京の田端に自分の窯をつくり、陶芸家としての人生をスタートさせました。

その後、波山は明治40年に東京勲業博覧会で三等賞を受賞したことを皮切りに、さまざまな展覧会で受賞を重ねます。明治44年には、妻・まるとともに「彩磁菊花図額皿」を照憲皇太后（明治天皇の皇后）の御前で制作するという栄誉にあずかりました。

ふるわへの愛

陶芸家として成功後も、波山は下



板谷波山作 彩磁菊花図額皿
重要文化財 泉屋博古館蔵

館町に住む高齢者一人ひとりを訪問して鳩杖を贈ったり、戦没者遺族のために香炉や観音像を制作したりするなど故郷のために積極的に活動しました。また、晩年には、郷里の若者の勉学のために私財を投じるなど、ふるさと下館への愛情を持続けました。

陶芸家としての功績だけでなく、その人柄から、今日も故郷の人々に愛され続けています。

- 1 波山が戦没者遺族に贈った観音聖像
- 2 日中戦争初期の戦没者遺族に贈られた香炉
- 3 80歳以上の高齢者に贈られた鳩杖（金属製）



画 イタヤトシヒロ

入場無料

第17回 波山の夕べ 波山と窯の物語

研究者とゆかりの人々が語る、波山の窯のすべて

日時 3月3日(火) 午後6時 開演

会場 アルテリオ集会室

出演者 荒川正明氏（学習院大学教授）ほか

問 下館・時の会 ☎23-2607 (T's 設計室)

開催中 板谷波山記念館 ちいさな企画展「波山さんからの便り」



筑西のスカーレットたち

陶聖・板谷波山の出身地である筑西市 陶芸の魅力と市内の活発な陶芸活動を紹介します

女性陶芸家が自らの窯を持ち、独自の信楽焼を生み出そうと奮闘する朝の連続ドラマ「スカーレット」が放映されていますが、筑西市も陶芸が盛んな地域であることをご存知ですか。今回は市内の陶芸愛好家たちの活動について取材しました。

陶芸家 板谷波山

筑西市の陶芸家といえば、なんと言っても、陶芸家として初めて文化勲章を受章した板谷波山が有名です。彼の作品は、静謐にして高貴な作風と器全体に文様を薄く彫る独特の技法により、色彩がとてもきれいなことが特徴です。なかでも「葆光彩磁珍果文花瓶」などは国の重要文化財となっています。



くりはら ゆきお
栗原 幸雄さん(樋口)

陶芸を長年やってきましたが、自分で作った抹茶碗で飲むお茶は最高です。

市内では、板谷波山記念館やしもだて美術館で、作品を鑑賞することができます。

市内で活動している 陶芸クラブ

筑西市には、数多くの陶芸クラブがあり、陶芸愛好家たちがアルテリオや協和ふれあいセンター、宮山陶芸工房などで、思い思いの作品を作っています。それらの作品は、文化祭や展示会などに展示したり、友人への贈り物や家庭で使ったりして、みなさん陶芸を満喫されています。

また、各団体が陶芸の楽しさを広めるために、子ども向けの体験教室を開催したり、11月に開催された全国報徳サミット筑西大会で、参加者



生徒たちの作品。十分に乾燥させた後、素焼きに入ります。

への記念品としてぐい呑みを制作したり、さまざまな活動をしています。市内には市民が自由に使える多くの窯があり、これだけ充実している市町村は全国的にも珍しいです。

手のひらから生まれる感動

今回は、市高齢福祉課が主催する「いきがいと創造の事業・陶芸講座」に出向き、講座の内容や生徒の作陶状況について、講師の小峰尚先生(桜川市在住)にお話を伺いました。

この講座は、月2回、市民向けに協和ふれあいセンターで開催し、陶芸手法の勉強や花瓶、籠、茶碗などの作陶をしています。生徒は初心者からベテランまで21人、先生や生徒同士で協力しながら陶芸を楽しんで



月2回の講座は、真剣に作業しつつも笑い声が絶えません。



講師の小峰先生。筑西市出身でオブジェなどの彫刻的な作品や女性の持つ曲線美の作品を手がけています。

います。講座では、ろくろを使用し、形作りをしています。きれいな形の仕上がりや焼き上がりの釉薬の思いもよらない色の変化などできあがった作品に感動するそうです。ここで制作した作品は、2月の展示会に出品されます。小峰先生の作品も展示されますので、ぜひご覧ください。

小峰先生は、「土に触れる」、「形を作る」ことで陶芸に親しみ、「作品を作りあげる喜びを味わってもらいたい」との思いで生徒に接しているそうです。工房では、生徒からの質問や協力要請が頻繁に飛び、和気あいあいとした雰囲気、陶芸を楽しんでいました。みなさんも自分で作った作品でコーヒーを飲んだり、花を飾ったりしてみてくださいか。

展示会

期間：2月5日(水)～9日(日)
午前10時～午後5時
(5日は正午から、9日は午後4時まで)
場所：スピカビル地下1階多目的スペース